

**家族生活についての全国調査  
(NFR98)**

**No.1**

2000年7月

**日本家族社会学会  
全国家族調査(NFR)研究会**

## まえがき

本報告書は、全国家族調査（略称NFR）の第1次報告である。現在、本調査によって得られたデータ（「NFR98」と呼ぶ）の分析は、家族社会学会会員中の約70名で構成される、全国家族調査研究会（略称NFR研究会）のメンバーによって進められている。調査の概要をまずは公表するという目的をもって作成されたこの報告書は、この間調査の準備・実施段階、さらには分析段階に実行委員・幹事等として中心にかかわった者たちによってとりまとめられたものである。全国家族調査の概要把握、および今後の分析の基礎として活用されることを期待している。

第I部「調査のねらいとデザイン」では、日本家族社会学会が全国家族調査（NFR）を企画した目的と経緯、調査票の設計、サンプリングとデータの基本特性が、実際に各局面を中心的に担った研究会メンバーによって述べられている。

第II部「調査結果の概要」では、基礎的な結果を主な調査項目領域ごとに区分して報告している。現在、進められている分析は、この第II部の章だてにはほぼ対応するかたちで構成された分析班の研究活動としておこなわれている。各領域のより詳細な分析結果は今年度末に刊行予定の報告書で公表される。

第III部「資料」では、紙幅の制約の許す範囲で調査に関する基礎資料を掲載している。データクリーニングを中心になっておこなった稲葉昭英、基礎集計表の作成にあたった澤口恵一両幹事の労をとくに多とするものである。データクリーニングは多大なエネルギーを要し、現在も続く作業である。今回の報告書は、「NFR98」データのVersion2に依ったものであることに留意願いたい。

まだ第1次の報告書の刊行という成果のとりまとめの中間点に至ったにすぎないが、ここに至るにも多方面にわたる支援と協力があつた。まず何よりも調査対象者のご協力に感謝しなければならない。また、このプロジェクトが日本家族社会学会を基盤としてなされたことを改めて想起するものである。この企画がスタートしたのは初代森岡清美会長の折

であり、先生には資金調達のための科研費申請チームを組織していただいた。そして数年の準備期間を経て本調査が実現する段階では、次期の正岡寛司会長に実施本部長という形で文字通り陣頭指揮に立っていただいた。そして、現在学会としては既に3代目の袖井孝子会長に引き継がれており、予備調査のデータを手始めに、このNFR98 データも一般公開による学術的な共同資源としての活用を準備中である。さらに、こうしたデータも活かしていけるような本格的な国際交流の道を開く事業にも取り組んでいただいている。このように、学会は、本調査の組織的基盤および財政的基盤であったのであり、とくに歴代会長のご尽力に感謝の意を表したい。

また、このプロジェクトは基本的に文部省科学研究費助成によって成り立ったものであるが、さらに長寿社会開発センターの研究助成によるサブプロジェクトを立てることによって計画を拡充することが出来た。文部省及び長寿社会開発センターに謝意を表すものである。

2000年7月

渡辺秀樹（全国家族調査研究会代表）

石原邦雄（報告書編集担当幹事）

# 目次

まえがき

## I 調査のねらいとデザイン

1. 全国家族調査の意義と経過	1
2. 調査票の設計	6
3. サンプルングとデータの基本特性	10

## II 調査結果の概要

1. 対象者と世帯の基本属性	19
2. 親族と家族の認知	27
3. 家族キャリア	39
4. 職業的地位	50
5. 夫婦関係	58
6. 親子関係	71
7. 家族の看取りと介護	83
8. 親族内外の援助関係	93
9. 家族に関する意識と健康意識	101

## III 資料篇

1. データクリーニングの概況	109
2. 基礎集計表	115

## 執筆分担者一覧

まえがき 渡辺秀樹（慶應大学）・石原邦雄（東京都立大学）

- I 1. 正岡寛司（早稲田大学）  
2. 加藤彰彦（帝京大学）  
3. 稲葉昭英（東京都立大学）

- II 1. 木下栄二（桃山学院大学）  
2. 藤見純子（大正大学）  
3. 加藤彰彦（帝京大学）  
4. 嶋崎尚子（早稲田大学）  
5. 岩井紀子（大阪商業大学）  
6. 渡辺秀樹（慶應大学）・西村純子（慶應大学・大学院）  
7. 大久保孝治（早稲田大学）  
8. 石原邦雄（東京都立大学）  
9. 清水新二（国立精神・神経センター精神保健研究所）・松田苑子（淑徳大学）

- III 1. 稲葉昭英（東京都立大学）  
2. 澤口恵一（大正大学）